

授業科目	認知行動療法基礎演習				単位	1		
履修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE31403J		
開講年次	2年	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-2			
担当教員	水貝 洵子							
授業概要	<p>福祉フィールドにおける心理専門職の実践内容についての解説とワークなどの演習を行い、福祉専門職が用いることのできる臨床心理学的援助の知識と技能を学ぶことを目的としている。</p> <p>本講義で扱う臨床心理学的援助技法としては、認知行動療法、解決志向アプローチについてである。</p> <p>それぞれの援助技法について、基本的な歴史や考え方を解説した後、ワークや支援事例の検討などを通し、各援助技法の意義や適用、支援過程について学びを深めていく。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知行動療法の歴史、意義、適用を説明できる。 2. 認知行動療法の基本的な考え方、技法、支援過程を説明できる。 3. 解決志向アプローチの歴史、意義、適用を説明できる。 4. 解決志向アプローチの基本的な考え方、技法、支援過程を説明できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合			70	30			100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			40	10			50	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10	10			20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)			20	10			30	
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
各心理療法についての基本的な考え方や支援過程について適切に説明することができる。 各心理療法の考え方や支援の在り方を学ぶことを通し、その人らしい在り方や生き方を尊重した支援を考えようとする姿勢や態度を持てるようになる。 今後の臨床実践においてどのように活かすことができるか、今までの経験も踏まえつつ、考えだすことができる。				各心理療法についての基本的な考え方や支援過程について適切に説明することができる。 各心理療法の考え方や支援の在り方を学ぶことを通し、その人らしい在り方や生き方を尊重した支援を考えようとする姿勢や態度を持てるようになる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	テーマ:認知行動療法の歴史と基本的な考え方 認知行動療法の成立や発展について解説を行う。 また、ひとの行動やこころの在り方を認知行動療法ではどのように捉え理解するのか、基本的な考え方について解説を行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	30
2	テーマ:認知行動療法によるアセスメント 認知行動療法のアセスメントシートを用い、自分自身の習慣化している行動について認知、感情、身体反応、行動の視点から捉えなおすワークを行う。	講義 実習	該当箇所の復習	60
3	テーマ:認知行動療法の技法 認知行動療法における、ひとの認知や行動変容を促す技法について紹介し、自分自身のことを題材に実際に技法を使うワークを行う。	講義 実習	該当箇所の復習	60
4	テーマ:認知行動療法の適用 認知行動療法を用いた事例の紹介を行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
5	テーマ:認知行動療法の適用 認知行動療法を用いた事例の紹介を行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
6	テーマ:認知行動療法の適用 こどもを対象に適用された事例を紹介する。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
7	テーマ:認知行動療法の適用 認知行動療法の考え方に基づいたグループアプローチを紹介する。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
8	テーマ:認知行動療法の適用 認知行動療法のひとつである、マインドフルネスについて基本的な考え方を解説した後、ワークを行う。	講義 実習	該当箇所の復習	60
9	テーマ:解決志向アプローチの歴史と基本的な考え方 解決志向アプローチの成立や発展について解説を行う。 また、ひとの行動やこころの在り方を解決志向アプローチではどのように捉え理解するのか、基本的な考え方について解説を行う。	講義 実習	該当箇所の復習	60
10	テーマ:解決志向アプローチ技法 解決志向アプローチで用いられる技法を紹介し、ロールプレイで技法を用いる体験をする。	講義 実習	該当箇所の復習	60
11	テーマ:解決志向アプローチ技法 解決志向アプローチで用いられる技法を紹介し、ロールプレイで技法を用いる体験をする。	講義 実習	該当箇所の復習	60
12	テーマ:解決志向アプローチの適用 解決志向アプローチを用いて支援を行った事例の紹介と解説を行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
13	テーマ:解決志向アプローチの適用 こどもを対象に解決志向アプローチを用いて支援を行った事例の紹介と解説を行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
14	テーマ:解決志向アプローチの適用 解決志向アプローチの考え方に基づいたグループアプローチを紹介、事例の解説を行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
15	まとめ: 本講義で紹介した2つのアプローチの違いや共通点について、また、福祉支援においてどのように活かせるかについて、グループで話し合いを行う。	講義 ディスカッション	該当箇所の復習	60
16				

17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	心理学の基礎知識を有していることが望ましい。			
テキスト	指定しない			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「事例で学ぶ認知行動療法」 伊藤絵美(著) 誠信書房 「子どもと家族の認知行動療法 うつ病」 C.ヴァーダイン・J.ロジャーズ・A.ウッド(著) 下山晴彦(監訳) 中田美綾(訳) 誠信書房 「マインドフルネス・ストレス低減法 ワークブック」 ボブ・スタール エリシャ・ゴールドステイン(著) 家接哲次(訳) 金剛出版 「解決志向ブリーフセラピー」 森俊夫・黒沢幸子(著) ほんの森出版 「解決志向アプローチ再入門 臨床現場での効果的な習得法と活用法」 テリー・ピショー イボンヌ・M・ドラン(著)三島徳雄(訳)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	ワークでは自分自身の習慣や行動をテーマにして、それぞれの心理療法の技法を体験することになる。また、ロールプレイやディスカッションでは積極的な参加が求められる。			
達成度評価に関するコメント	レポートの内容やディスカッションのテーマについては、授業の中で指示を行う。			